

県道、市道の整備等について

一般質問



織部 徹 議員
(21 政会)

問 県道野上河高線の拡張整備について、昨年9月に宇仁地区6町の区長、野上町区長、宇仁郷まちづくり協議会会長及び市議会議員が押印し、加東土木事務所長に要望書を出されているが、県の整備計画に上がらないと整備は難しいという答弁があった。

本年9月、同様の要望書が出されているが整備は難しい。

以前に、県道野上河高線で青野町を抜け、中国道の上を越す手

前の40メートルくらいが、特に道幅が狭く、自動車が交差しにくいので、整備計画に上がらなくとも緊急整備として、道路の北土手の部分を立ち上げ、道幅を広げられないかという質問をし、検討する趣旨の答弁をいただいたと思うが、その後の進捗についてお聞きしたい。

答 県からは、今年度中に道路の将来計画を踏まえた、部分拡幅の検討に向け、調査測量を実施する意向であるとの返答がありました。約40メートルという限られた区間ですが、早期の整備に期待をしています。

問 市道脇の土手は、かなりの草が生い茂る箇所が多くなっている。道普請や田んぼの持ち主の作業に併せて、刈っていただいていたが、

高齢化が進んでいることもあり、刈り取りされず、通行にも支障がある箇所も多く、また景観も悪くなっているがいかがか。

答 市道の草刈りにつきましては、幹線道路で市内の24路線、延長で言いますと30キロ余りを業務委託し、年1回、また場所によっては2回、草刈り作業を行っているところです。

各自治会の共同作業等でもご協力いただいておりますが、高齢化が進んでいる状況があります。

市では、自治会による市道の草刈り活動の支援ということで、混合ガソリン20リットルを、要望により支給する制度を今年から設けました。

今後とも地元自治会と連携協力しながら、良好な道路環境の維持を目指したいと考えています。

加西市の財政について

一般質問



松尾 幸宏 議員
(自民の風・誠真会)

問 28年度決算の一般会計では、実質収支額2,200万円の黒字、単年度収支額では6,200万円の赤字との数字が出ており、実質単年度収支は6億6,000万円の赤字だが、加西市の財政は健全なのか、それぞれの数字の意味についてお尋ねする。

答 実質収支とは、歳入歳出から翌年度へ繰り越すべき財源を控除した決算額です。

単年度収支は、その実質収支から前年度の実質収支を差し引いた

額で、当該年度だけの収支を見るものです。

実質単年度収支とは、財政調整基金への積立金、債務の繰上償還等、歳出として出るが、実質的な黒字の要素で、これを差し引いたものが実質単年度収支になります。また実質単年度収支が赤字であれば、今までの蓄え等を取り崩した形の決算になります。

ただ、大きな事業のために基金を積み、それを取り崩しその事業に充てたり、緊急的な大規模事業に着手する場合、一時的な赤字が発生するが、それ自体の善し悪しは、一概に言えないと考えます。

問 健全化判断比率、資金不足比率は財政が健全との数値だが、28年度末の財政調整基金残高16億4,000万円の内、既に6億数千万円の取り崩しがある。

今の状況で29年度は財政調整

基金を積み立てる決算ができるのか。

答 今年度は、27年度、28年度で整備を進めてきた道路修繕事業に一定の効果が出ていることや、産業振興促進奨励金の交付が一区切りついたこと等、市単独事業の歳出が前年度よりも相当減少しています。一方、歳入面では、市税の徴収率が28年度に続き、今年度も昨年度を上回る収納率を維持しています。

ふるさと納税もお礼の品を拡充し、加西市ゆかりの方々への積極的なPR等、増額に向けた取り組みを継続したいと考えます。

また、加西インター周辺の産業団地の整備を進め、今後企業誘致等により固定資産税や法人市民税、市民税等の増収につなげ、歳出の抑制とともに、持続可能な財政運営に努めてまいります。